

第96回 広島県中央メーデー



集会最後、参加者全員で「団結がんばろう！」

働くものが団結！
生活と権利を守り、
平和と民主主義、中立の日本を！



5月1日(木)第96回広島県中央メーデーが開催され、全体で350名参加、うち広島自治労連から70名を超える仲間が参加しました。参加者は平和公園噴水前を午前10時に出発、労働条件の改善や国民生活の保障、平和社会の実現など、コールしながら、集会会場のハノーバー庭園までデモ行進しました。

軍拡許さない
広島から核兵器禁止の
声、世界平和を訴える

メーデー集会では広島県労連議長・神部泰代表委員より、あいさつの中でメーデーの歴史が紹介されました。また、現在の物価高の中でさらなる賃上げが課題となることや、政府の軍拡を許さず被爆80年を迎える広島から核兵器禁止の声を上げ、世界平和を訴える必要があることなどが述べられました。

ケア労働者、非正規労働者の賃上げを
年金支給の厳しさ改善

活動報告では、ケア労働者や非正規労働者から労働に見合っていない賃金についての訴えが、年金者組合から物価高に追いついていない日本の年金支給の現状について訴えがありました。

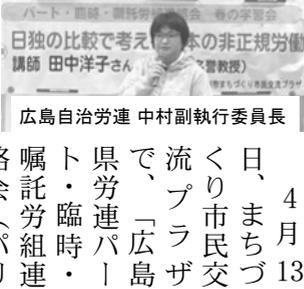
プラカードコンクールでは、新婦人広島県本部の「大軍拡・物価高騰に抗い、女性たちは声を上げ続けます」が1位を

獲得しました。集会の最後にはメーデー宣言が採択され、集まった参加者は団結して生活や権利を守る決意を新たにしました。



メーデーで行進する様子

ドイツでは「家事や子育ても労働だ」



広島自治労連 中村副執行委員長

4月13日、まちづくり市民交流プラザで、「広島県労連パト・臨時・嘱託労組連絡会(パリン連)春の学習会」が開催され28名が参加しました。学習会では筑波大学の田中洋子名誉教授が「日独比較で考える日本の非正規労働」のテーマで講演。日本とドイツは19世紀後半に近代化、男性が賃金労働、女性が専業主婦を担うという似た社会構造でした。しかし2000年前後、グローバル化で社

会構造の変更を余儀なくされ、ドイツは「家事や子育てなどのアンペイドワークも労働である」と意識変革、「パート≠非正規」「短時間正社員」「誰もが理由を問わず自分の希望に応じて働く時間を短くしたり、8時間に戻したりできる」等を導入したと報告。日本でも導入した企業があると紹介しました。後半は各労組が運動交流し、全国集会の成功を意思統一しました。集会後は「最低賃金全国一律制度への法改正を求める請願署名」と宣伝行動を行いました。

第33回 非正規ではたらくながまの全国交流集会in広島

開催まで残りわずか! 6/7(土)~8(日)

いよいよ開催が迫ってきた「非正規ではたらくながまの全国交流集会in広島」!今年「格差のない社会」と「核なき世界」の実現がテーマです。6月7日(土)は竹信三恵子さんの講演で「非正規労働者の現状」について学び、被団協の佐久間邦彦さん・山田寿美子さんからのメッセージ「ヒロシマの証言と訴え」で

「平和」について考えます。6月8(日)は「ジェンダー平等」「非正規労働者の人権」「全国一律最低賃金制度」「核なき未来」等をテーマにした交流会や「非正規労働者のしゃべり場」等9つの分화가あります。「平和公園内の碑めぐり」「海上自衛隊呉基地を巡るツアー」の屋外の分化会も企画しています。二日間のうち、一日だけのご参加も

大歓迎です。詳しくはHPをご覧ください。参加費無料!!申し込みは今すぐ広島自治労連へ(082-243-9240)。多くの方のご来場をお待ちします。

全労連非正規センターHP



新鮮力① 今年のNEW FACEを紹介

広島自治労連は、4月以降組合加入が続いています。新しい仲間がどんなひとたちなのか、少しだけ紹介します。

子どもたち、職場のみなさんと
しっかりかかわっていきたい

広島市留守家庭子ども会指導員労組
放課後児童クラブ指導員

長年フラダンスを趣味とし、体を動かすことや工作など物作りなども得意です。絵画にも興味があります。

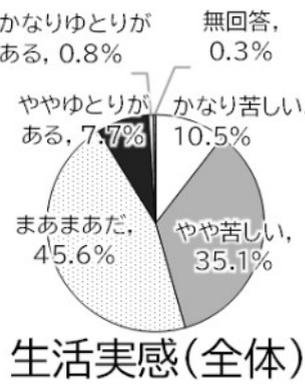
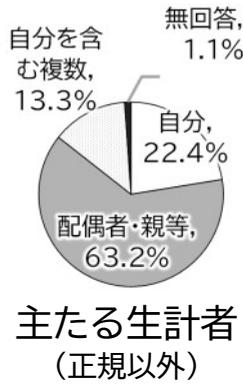
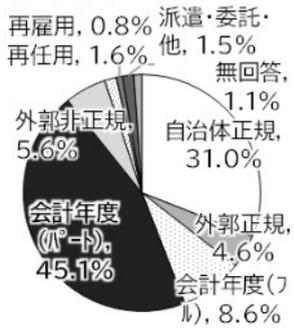
子どもたちと、人としてしっかり関わっていきたいと思います。

同じ職員の方々からもいろいろ学びながら、自分らしさを見つけていけたらと思っています。自分らしく生活していくための足がかりにしたいと思っています。

働くみんなの要求アンケート

ご協力ありがとうございました！集計結果を抜粋して報告いたします。■ 配布枚数 14705枚 集計枚数 4801枚 回収率 32.6%

雇用(全体)



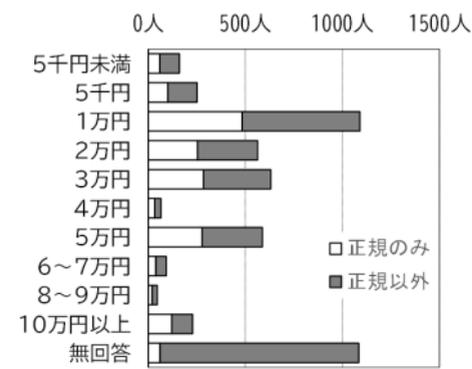
主たる生計者 (正規以外)

生活実感(全体)

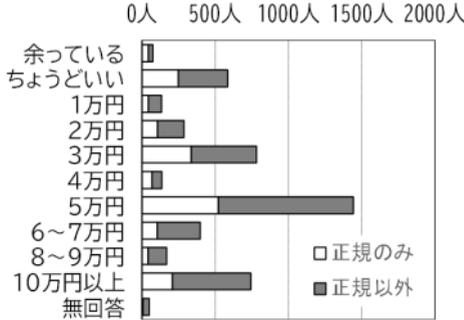
●雇用形態は公務公共正規が35.6%、非正規59.3%は、2021年以降、ほぼ変化はなく、正規以外で自分が主たる生計者が20%前後を占める状況も同様に変化はありません。生活実感について全体の45%が、正規以外では49%が「苦しい」と答えています。会計年度任用職員や外郭団体嘱託職員の4月週や一時金が改善されましたが、米価だけではない物価高騰、光熱費上昇の影響は深刻です。

●中高年層、再任用・再雇用の生活状況に合わせた賃上げへ力を入れなければなりません。

賃上げ要求 (月額)



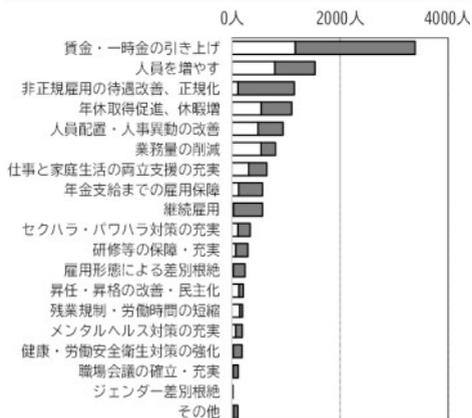
月額であといくら



●安心して生活するため月額5万円を求める回答が最多です。正規以外のみでは10万円を求める回答が最多で、この額も2021年以降同様です。処遇改善は行われていますが、「時間給1700円以上の実現」が必至であり、特に外郭団体嘱託職員の毎年昇給も強く要求しなければなりません。

●働く条件の改善では「賃金・一時金の引上げ」は毎回最多の要望です。夏の人事院勧告に向けて一筆でも多くの署名に取り組み、職場の声を集めていきます。

●人員不足のため、年休取得も5~10日未満の回答が最多。職場の風通しを良くし、安心して働き続けられる環境が住民にも職員にも重要と声をあげましょう。



広島自治労連連続学習会 「聞いて 知って 私たちの仕事」第8回 広島市児童館労組・府中町留守家庭児童会労組



4月25日(金)広島自治労連からオンライン併用で、連続学習会「聞いて、知って、私たちの仕事」の第8回を開催。会場から14名、オンラインから22名の計36名が参加しました。

まず広島市児童館労組の執行委員長

が、児童館は安全・安心な環境の中、遊びを通して子供たちの健全育成を図る場所であるという説明がありました。

多額の写真を写しながら、老朽化している施設もあり、職員が修繕を繰り返しながら運営して、日々の活動は限られた予算の中、空き缶やペットボトル等を活用して子供たちのおもちゃを作成しているという話に、職員の絶え間ない努力を感じました。そんな中、館長

として、みんなが気持ちよく働ける環境づくりをはじめ、多くの仕事がありながら賃金はそれに見合わない現状を訴えられました。

続いて、府中町留守家庭児童館労組から執行委員長と新執行委員長の府中町の児童館の現状を報告しました。

年々利用者が増え、2000円を徴収しているものの、物価の影響で活動は高かっています。



「聞いて知って私たちの仕事」

大きな児童館では利用者が増えるため、行事を行うことも難しくなっていることもあり、広島市同様、運営には大変な苦労があることを知ることもできました。

中でも、子どもの受付については当局が電子申請で対応することになり、多少業務が整理されたことも紹介されました。

今回は広島市と府中町の指導員の方から、日々の運営の苦労を語っていただきながら、会場では和気あいあいとした雰囲気、質疑応答も活発に行われ、参加者間で色々な学びがありました。

～第18回地方自治研究全国集会在広島成功へ～

「ニュータイトル」「イメージキャラクター」募集中！

来年10月3日(土)～4日(日)、広島市内で「第18回地方自治研究全国集会」を開催します。この集会は、公務公共の仕事が住民のいのち、くらしを守る仕事になっているかどうかを見つめ直す集会です。

集会成功にむけてニュースで取り組み状況をお知らせし、みなさんのご意見やアイデアなども寄せていただきながら楽しく盛り上げていきたいと思っています。

そのためにも、みなさんから「ニュータイトル」と「集会イメージキャラクター」を募集します。ぜひとも応募をお願いいたします！

思いついたアイデアは、広島自治労連へメールかQRコードで送ってください。 email hjrouren@urban.ne.jp

●6月末までにお寄せ願います。お待ちしております！！

●最優秀賞は「お米券5000円」、特別賞「フリーズドライお味噌汁2000円相当」を各部門・各1名ずつに！

■広島自治労連第71回中央委員会■

6月15日(日)9:45～12:00 ロードビルからオンライン併用開催。

春闘総括、夏のたたかい、平和の取り組みについて提案します。各単組からの発言をお願いします。



藤原辰史教授

5月3日(土)午後、県民文化センターで「2025平和とヒロシマ憲法集会」が開催され、オンラインを含め551名が参加しました。

京都大学の藤原辰史教授が「非道の時代の平和論―食の歴史と題して講演しました。

「食」「食糧」を歴史的に捉えようと、藤原教授は参加者の給食事情を聞きながら、食について話すと怒りをもつて述べました。

世界中が戦争だけでなく、企業の道具になり果てた経済活動という暴力に、長い間苦しみ続けていると怒りをもつて述べました。

「NO戦争」とはいのちを奪う企業との闘い

そして、「NO戦争」とは「いのちを奪う企業との闘い」であり、「食」を通じて平和思想が最も強靱ではないか、と問いかけ講演を閉じました。

自分のあり方を問う直す学びとなりました。

5月3日 ヒロシマ 憲法集会 「食」を通じた平和思想を考える

あなたのアイデアをお寄せください！